

支える喜びが未来を拓く —児童福祉の現場から—

子供たちの未来を支える児童福祉の世界。その最前線で活躍する職員たちが、仕事の魅力や課題、やりがいを語り合いました。現場の声から伝わってくる、福祉の仕事の本質とは。



児童心理司
子供の心の状態に寄り添い、最も適切なケアを行います



一時保護所職員
私たちは子供を一番近くで見守る存在です



児童福祉司
子供や家族の困りごとを良い方向に変えていくお手伝いをしています

—支援の中で大切にされていることは？

職員 F: 子供との信頼関係づくりですね。まずは安心できる環境を作ることを心がけています。子供たちは本当に純粋で、見方を変えれば素晴らしい長所がたくさん見えてきます。それを次の支援者や家族に伝えていくことも大切な役割です。

職員 T: 私は中立的な立場を保ちながら、子供の小さな頑張りにも目を向けるようにしています。急がず、ゆっくりと関係を築いていくことで、子供自身の変化や成長を支えられると考えています。

職員 H: 保護者との関わりでは、自分自身の価値観に寄った批判的な態度を取らないことが重要です。家族の歴史を教えてもらいながら、「一緒に考えていきましょう」という姿勢でいられることが、重要だと感じています。保護者の戸惑いや迷いが、怒りとして表現されることもあります。それも受け止める必要があると思っています。

—チームでの連携について、どのようにお考えですか？

職員 F: 一人の子供に対して、児童福祉司、児童心理司、一時保護所職員がチームを組んで支援します。生活の中での気づきを共有し、それぞれの専門性を生かしながら、子供にとって最善の支援を考えていきます。

職員 T: 私たち児童心理司は、面接場面での子供の様子を見させていただきますが、実際の生活場面での情報は一時保護所の職員さんから教えていただくことが多いです。その情報があってこそ、より適切な心理的支援が可能になります。

職員 H: 本当にその通りです。私たち児童福祉司は限られた面接時間の中で関わりますが、一時保護所での様子や心理面での専門的な見立てがあることで、より良い支援方針を立てられます。各々の視点が違うからこそ、総合的な支援が可能になるんだと思います。

—印象に残っているエピソードを教えてください

職員 T: 父やその内縁の妻からの暴力で一時保護になったお子さんのケースで、保護された当時は感情がうまく制御できず、些細なことで粗暴な行動を取っていました。児童福祉司・児童心理司が、子供の行動の背景にある困り感に寄り添いながら面接や調査を重ね、一時保護所からの情報も頼りに、保護者や地域の関係機関と調整を図り、実母宅での家庭復帰に繋げました。

職員 F: 一時保護所では、心の傷付きが生活にどう影響しているか、どう対応するとうまくいくか、子供の良い面を捉え退所後も生かせるよう工夫してまとめました。

職員 T: あれは本当に役立ちました。当初は家庭復帰に否定的だった地域の方も、生活場面での対応方法や子供の気持ちなどを丁寧に説明することで、次第に前向きになり協力してくれて。家庭復帰後は児童心理司が中心となって親子合同のプログラムを実施したり、児童福祉司が学校訪問したり。各職種が専門性を生かし、チームとして信頼し合いながら子供のために全力で取り組む一体感がありましたし、最終的にお子さんが安定した生活を送れるまでになったことは何より嬉しかったです。

—他業種から転職を考えている方も多くと思います。アドバイスをいただけますか？

職員 F: 福祉の現場には、様々なバックグラウンドを持つ職員がいます。例えば元学習塾講師の方は子供とのコミュニケーション力を生かして活躍されていますし、一般企業で働いていた方は事務能力の高さを買われています。それぞれの人生経験が必ず生きる場面があります。

職員 H: 私の同期にも異業種からの転職者が何人かいます。東京都の場合、充実した研修制度があるので、福祉の専門知識は入職後にしっかり学べます。大切な

のは自分の価値観や特性を理解していることです。支援の現場では、自分自身の価値観が問われることが多いんです。

—最後に、福祉職を目指す方へメッセージをお願いします

職員 F: 子供が好きなのはもちろん、様々な経験や特技を持った方に来ていただきたいですね。それぞれの強みを生かせる場所が必ずあります。

職員 T: この仕事は大変そうで難しそうに見えるかもしれませんが、私も最初は不安でしたが、できるかどうかより、やりたいという気持ちを大切に選択してください。東京都には安心して学び、成長できる環境が整っているので、ぜひ一歩を踏み出してほしいと思います。

職員 H: 私たちの仕事は、家族の人生の重要な場面に立ち合わせていただく特別な仕事です。大変なこともあります。ぜひ一緒に働ける仲間が増えることを願っています。

座談会を終えて

児童福祉の現場では、それぞれの職種が専門性を生かしながら、チームとして支援にあたっています。子供たちの成長を支える喜びと、専門職として成長できる環境が整っていることが印象的でした。具体的なチーム連携のあり方や、東京都ならではの充実した研修体制も、福祉職を目指す方々の参考になるのではないのでしょうか。

(聞き手 1: プロライター。2 児の父であることから育児や環境問題等に関心を寄せている。)



Tさん(児童心理司・入部 6 年目)
子供のアセスメントと心理ケア、保護者や関係者への助言を担当

Fさん(一時保護所職員・入部 33 年目)
一時保護所に入所中の子供たちの生活支援と行動観察を交替制勤務で担当

Hさん(児童福祉司・入部 3 年目)
子供や保護者からの相談対応、施設入所中の子供の支援等を担当